

トピックス

スクミリンゴガイの越冬可能地域の推定

スクミリンゴガイは低温に弱く、多くは冬に死んでしまうが、暖冬年には死亡個体が少なく、次作の水稲に大きな被害を及ぼす。その被害対策の参考として、冬期の気温から越冬可能な地域を推定し、ホームページで公開している。

移植直後のイネを食害して問題になっているスクミリンゴガイ(通称ジャンボタニシ、以下貝、写真)は低温に弱く、10℃以下の低温が一定以上続くと死亡する。そのため、暖冬の場合、貝は死なずに越冬して、次作の水稲栽培で被害が起こると予想される。

そこで、病害虫部(兵庫県病害虫防除所)では、冬期の日平均気温から、越冬が可能な地域を推定し(図)、対策のための情報を提供している。図の赤色の地域は冬期の気温が高く、貝の越冬が可能と推定される地域である。暖冬年であった令和元~2

年は図右のとおり、平年(図左)と比べて、越冬可能と推定される地域が内陸まで広がっていることが分かる。

平年において、越冬可能と推定される赤色の地域(図左)でかつ貝が常発している地域は、冬期に死亡する貝が少なく、被害回避には移植後の浅水管理や薬剤防除など防除対策が毎年必要である。

暖冬年(図右)において、平年(図左)と比べて内陸へ広がった赤色の地域では、多くの貝が越冬可能になり、次作で被害が出やすいと考えられる。実際に、令和2年作の水稲ではこれらの地域で多くの被害があり、はじめて被害が発生した地域もみられている。

この越冬可能地域の情報は、本格的に作付けが始まる5月までにホームページで公開する。ぜひ防除の参考にさせていただきたい。

(<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

柳澤 由加里(病害虫部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-1222)



写真 スクミリンゴガイ及び被害の様子

左上：成貝 左下：卵塊

右：下半分は移植まもなく貝に食べられて稲株がなくなった状態

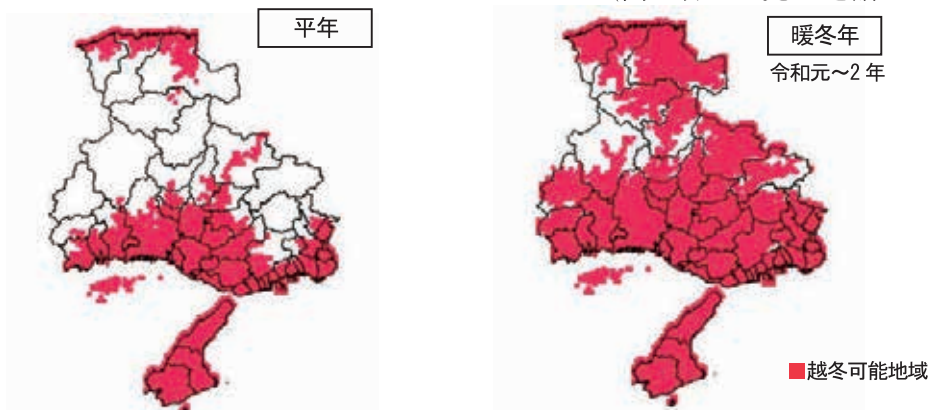


図 平年と暖冬年におけるスクミリンゴガイ越冬可否の推定

農研機構メッシュ農業気象データ(The Agro-Meteorological Grid Square Data, NARO)(図左：平年の日平均気温データ、図右：令和元~2年の日平均気温データ)をもとに、越冬可能地域を推定。

推定条件：期間は10月1日~翌年3月31日。日平均気温が10℃未満の場合に10℃とその気温の差の積算値が700未満を越冬可能とする。小澤・牧野(1988)による。